

「アカデミア・コンソーシアムふくしま」の構築による
広域連携型学士力向上プログラム

れ ん け い

大学のさまざまな「資産」を活用し、「地元へ貢献する」大学づくりをすすめます！！



昨年の進学セミナーで！



中学生・高校生に！！



講義をされる
入野 修理事長！！！！

目次:

- 共通授業構築に向けた相互見学 2
- 地域学講演会 2
- 工場訪問シリーズ 2
- DVDドラマ撮影終了！！ 3
- 連続3日間のハードな撮影 3
- 須賀川市中心商店街活性化調査 報告会 3
- 調査報告 4

「戦略連携」の更なる強化と飛躍を！

ACF理事長 入野 修

新年にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。昨年は、広域連携型学士力向上に関する事業を積極的に展開し、大きな成果を上げた年でありました。その事業成果は関係者から高く評価されており、うれしい限りです。これは本事業の企画および実施に関わりました多くの方々のご尽力の賜物と心より感謝しております。

本ACFの戦略連携プログラムは教育事業が主体ですので、充実した教育によって有為な人材を世に送り出すこと自体が、大きな地域貢献であることは言うまでもありません。しかし、本プログラムの事業目標には、地方自治体や企業との連携活動が随所に組み込まれていません。今年度は、これまで以上に大学の教育研究の資財を活用する視点に立って、大学と地域、さらには地方自治体や企業との教育研究連携を強化した企画事業の展開を活動目標の一つとして飛躍できたらと願っています。ACFの新たな真価が問われる年となりそうです。

今回の政策コンテストでは、高等教育

機関がステークホルダーに対して、各自の教育をはじめ研究者の研究活動が、一般の人にとってどう影響するかを分かりやすく発信し、社会的理解を得る努力をすることが、予算獲得にも繋がる重要な位置づけになっていることを再認識させられました。

我が国の大学は全入時代、ユニバーサル段階に入り、大学は学生等から選ばれる対象となり、大学の教育研究に関する情報を積極的に外部に提供することか求められています。ACFでの大学間連携活動を通して、ステークホルダーに対して、適確かつ平易な内容で情報を迅速に提供し、各大学の教育水準の向上や教育品質の保証に反映し、人材育成に活かす仕組みを整備していくことが重要と考えています。

教育という同じ使命を有しながらも、持ち味の異なる県内の高等教育機関がそれぞれの個性を発揮して、より良い連携関係を強化していくことを願っています。

ACF外部評価委員会 開催

去る12月1日(水)午後5時から、須佐喜夫会長(県商工信用組合理事長)、山崎勲(県私立中学高等学校協会会長)、富田孝志(県文化振興事業団理事長)、遠藤由美子(奥会津書房編集長)の各委員が出席(永倉禮司(県中小企業再生支援協議会プロジェクトマネージャー)委員は別日程で参加)し、郡山市の県信用商工組合の会議室でアカデミア・コンソーシアムふくしま外部評価委員会が開催されました。

清水修二ACF企画運営委員長から、平成22年度前期の戦略的学士力向上事業12プログラムの経過報告とACFの研究連携推進部会、地域

連携推進部会、教育連携推進部会の三部会の活動報告等がなされ、各委員からは質疑や意見、また、今後のACFの事業への提案などが出されました。

長い目で今後の大きなテーマになる農業、教育、国際化、高齢化と、県内各大学の叡智を総合してどう向き合うのかを考えてほしい、ACFの立ち位置を明確にしつつ、今までできなかったことに的を絞って何年か全大学をあげて取組むといったことが必要であること、また、「学士力」ばかりでなく「就職力」を、留学生ばかりでなく日本の学生の英語力を、などの意見が出されました。

共通授業構築に向けた相互見学

「福島学」プログラム



講師の懸田弘訓氏

「福島の伝統芸能～その本質と特色」 一県立医科大学「福島学」(藤野美都子教室)

去る12月14日、福島県立医科大学の「福島学」(必修科目)の授業で、県文化財保護審議会委員である懸田弘訓氏が「福島の伝統芸能」と題し、県内各地の民俗芸能をDVDで紹介しながら講義されました。

この授業は、福島学プログラムの共通授業構築に向けた相互見学の対象授業として、日大、福島工専、福大、医科大学などから関係教職員が参観し、医大学生約100名とともに聴講しました。

懸田氏は、民俗芸能は「究極の願望である長寿祈願」にあるとして、福島県の

民俗芸能の背景の説明として、医師を目指す学生であるからこそ、江戸・天明年間の飢饉の惨状と墮胎・「間引き」を取り上げ、古文書・記録と照合しながら講義されました。また、DVDによる県内各地の民俗芸能紹介では、その由来と舞や踊りの振付の意味を解説されました。

生命(いのち)に繋がる伝統芸能の由来や背景と地域の営みを知るための授業に、学生からは地域の理解を深めるいい機会であったなどの感想が述べられました。

各大学の特徴を生かした地域学授業構築を目指す今回の試みについては、平成22年12月16日付けの福島民友新聞に

「『福島学』取り組み視察」と紹介されました。



聴講する医大学生



連携大学関係教員(手前)

「地域学講演会」～2月17日(木)午後1時半から県立医大で開催

「東北学」の赤坂憲雄氏と 「いわき学」の夏井芳徳氏を招いて

地域学の今日的意義と学生の学びの中で地域学をどう位置づけるかを再考するため、「福島学」プログラムでは、赤坂憲雄氏(県立博物館館長・東北芸術工科大学教授)と夏井芳徳(いわき市・市民協働課長・いわき明星大学非常勤講師)を招いて、来る2月17日(木)午後1時半から福島県立医科大学会議室で講演会を開催いたします。

「ひとつの日本」から「いくつもの日

本」という視点で日本文化の重層性を唱え「東北学」を主唱した赤坂氏と新聞紙上での地誌等古文書の解説や大学での「いわき学」講座授業の経験を持つ夏井氏の講演を聴き、その後、お二人を交えての意見交換会を開くことを予定しております。

「福島学」プログラム・メンバーのほか、地域学に関心のある多くの大学関係者の参加を歓迎しています。

なお、当日は講演会の後、プログラムの全体会議(第3回)を予定しております。



質問に答える講師

工場訪問シリーズ(いわき地区)

ものづくりプラントキャンパスプログラム

平成22年12月1日(水)に日産自動車㈱いわき工場を訪問しました。

日産自動車いわき工場は、1994年1月に稼働を開始した、最新鋭のエンジン生産工場です。ものづくりキャンパスプログラム取り組みとして、地域にある優れたものづくりの現場を訪ね、それを支える科学技術に理解を深めるとともに、自らのキャリア形成にも役立てる目的で工場見学を行いました。いわき明星大学15名、東日本国際大学17名、福島工業高等専門学校2名、県北地区からも福島大学学生6名が参加しました。

まず工場の概要について説明を受け、従来自動化が困難であった工程にロボットを積極

的に導入して、資材受け入れから生産、出荷までをコンピュータで統合管理する高品質・高効率な生産が実現されていること、人にやさしい工場として、鑄造工程での粉塵の出ない高圧金型鑄造の導入や重量物を扱う作業の機械化など、作業環境の改善を行い、快適に働ける工場を目指していることなどを実際に工場内を見学しながら説明を受け、理解を深めました。(文・福島大学小沢喜仁教授)

県内の異なる大学、異なる分野で学ぶ学生が一堂に会することにより、様々な視点で見学を実施することができました。郡山地区、いわき地区に続き、今後福島地区においても実施予定(2月16日・日東紡福島工場決定)です。



参加者全員でハイ!チーズ!!



担当者の説明に聞き入る参加者の皆さん

DVDドラマ撮影終了！！

「生きる力」養成プログラム

「生きる力」養成プログラムで制作するドラマ、

「つまずきを成長の糧にして～起き上がり小法師のように～」の撮影が12月3日から5日にかけて、福島大学構内で行われました。

初日3日の撮影は福島テレビの藺草英己アナウンサーを交えての撮影ですが、暴風雨のため屋外での撮影は中止し、屋内での撮影となりました。撮影は序盤からつまずく格好となり、こればかりは作品のタイトルがタイトルであるために、苦笑いをするしかありません。しかし、関係者に晴れ男・晴れ女が多かったのでしょうか。絶望的に真っ暗だった雨雲も午後になるとどこかに去ってしまい、屋外での撮影ができるような天候に。午前

中に屋内で撮影したシーンを改めて屋外で撮影し、結果的には事前に何度もロケハンをした場所での撮影ができました。藺草アナウンサーには、ACF参加大学宛てにもサイン色紙を書いて頂きました。

翌4日は、学生が出演するドラマの部分の撮影が本格化し、各校の学生が集結しました。それぞれがそれぞれの配役を演じるべく役作りをしてきたようで、撮影は順調に進みました。しかしこの日は福島県内が暴風に見舞われ東北本線が運転を見合わせており、電車が動かずに出演者が到着しない、あるいは出演者が帰ることができないということで、前日同様に舞台裏では慌ただしく動き回っていたのでした。※へ（左下）



FTVの藺草英己さん



ハイ本番！藺草アナ



撮影スタッフ



自宅の雰囲気を！！



学館の食堂で撮影



地元のみなさんへ報告



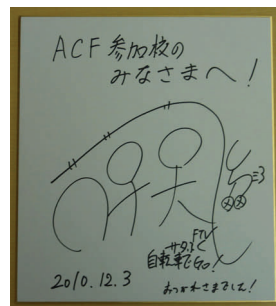
調査研究の成果発表

連続3日間のハードな撮影

※最終日の5日は、いよいよ撮影もフィナーレを迎えます。雨に降られることも暴風に吹かれることもなく空は晴れ渡り、三日間で最も撮影に適した好天となりました。多くの学生が出演した二日目の撮影と比べ、三日目の撮影は出演者数が少なかったこともあり、収録する順序が逆だったらね、という声がちらほらと聞かれましたが、それでも一番撮影が順調に進んだ日だったことに違いはありません。

このように舞台裏は一喜一憂の連続だった撮影ですが、その試作版の試写会

は7日に行われ、それを踏まえて再編集と音声のミキシングが行われます。完成は2月上旬を予定していますが、完成が待ち遠しいです。



FTV藺草さんのサイン

Webサイトリニューアルしました。

ご意見お待ちしております。

<http://u-renkei.net.fukushima-u.ac.jp>

須賀川市中心商店街活性化調査！！エリアキャンパス・プログラム

エリアキャンパス現地報告会！！

12月10日に須賀川市総合福祉センターにおいて、福島大学山川ゼミナールが開催しました。

これは今年度実施した須賀川市の中心市街地の活性化に関する学生による調査の結果を、地元の商店主など今回の調査に協力した関係者の前で報告したもので、会場には約100名の地域住民のみなさんが来場しました。

学生が目線から見た中心市街地活性化へ向けての課題と、その課題への対処法

として出された提言は、中心市街地の個人商店の魅力、個人商店の利用し辛い理由などについての客観的な分析や、郊外の大型店舗と中心市街地の個人商店の共存・連携の可能性の追求など、来場者の関心を引く内容が目白押しでした。

実際、報告後に行われた質疑応答では盛んな議論が飛び交い、学生と参加者の双方が中心市街地の実情をよりいっそう深く考える機会となったようです。1時間半という短い時間の報告会ではありましたが、たいへん白熱し充実した報告会となりました。

地域のにぎわいは地域に根ざした人づくりから

調査報告

教員養成研修高度化プログラム

【岡山大学・鳥取大学調査】

中国・四国地域において、教員免許状更新講習受講対象者の多様なニーズに応え、あらたな研修機会を提供することを目的として、国立六大学（鳥取大学、島根大学、岡山大学、広島大学、山口大学、高知大学）が中心となって、共同のホームページを開設している。

今回、プロジェクトチームリーダーの谷雅泰教授（福島大学）、早坂美春主事（福島大学）が、平成22年12月1日（水）に岡山大学、2日（木）に鳥取大学を訪問し、構成大学の担当者から実施運営上の課題などの聴取や意見交換を行うことができました。

【早坂美春主事（福島大学）からの報告の一部】

・岡山大学、鳥取大学ともに教員免許状更新講習を他大学と連携して行っていますが、この連携の出発点は両大学とも申込システムの共有であった。この連携には多くのメリットがある半面、まだ課題もある。

・「アカデミア・コンソーシアムふくしま」の教員養成・研修高度化プログラムは、教員になることだけでなく、教師になってからの課題にも取り組んでいます。今回の訪問は今後の教員免許状更新講習の実施にあたり、大変参考になりました。

【教員養成コンソーシアム四国調査及びフォーラム参加報告】

上記が国立大学法人で構成されていたのに対し、教員養成コンソーシアム四国は四国の私立三大学（徳島文理大学、四国学院大学、高松大学）で構成されている。今回、谷雅泰教授（福島大学）、大橋保明准教授（いわき明星大学）、七島貴幸研究員（大学連携センター）の3名で平成22年12月18日（土）、19日（日）に教員養成コンソーシアム四国の主催で開催された、「小学校外国語活動研修会」「教員養成コンソーシアム四国第2回フォーラム」に参加し、さらに担当者との意見交換を行いました。

【大橋保明准教授（いわき明星大学）からの報告の一部】

・教員養成コンソーシアム四国では、学生たちの自主的な活動を大切にする観点から、「学生ボランティア」の組織化に力を入れ、ようやく軌道に乗ってきた。このことが、事業予算終了後の活動継続につながると考えている。今後は、プログラム担当メンバー間で情報を共有し、企画実施の際の参考とします。



ご本入の河承をいただきました。



アカデミア・コンソーシアムふくしま



国立大学法人

福島大学
Fukushima University

福島大学
大学連携センター

編集・発行
大学連携センター
TEL.024-548-5295
福島市金谷川1

「高大連携のあり方について考える」

高大連携プログラム

高大連携プログラムでは、平成22年12月22日に会津大学を会場として、「高大連携のあり方について考える」と題し、高校教員からの意見聴取会を開催しました。

話題提供者として齋藤正志教諭（川口高校）、遠藤利晴教諭（会津学鳳高校）、穴澤千佳教諭（耶麻農業高校）の3名、高大連携プログラム担当として、プロジェクトチームリーダーの森本明准教授（福島大学）、メンバーの鈴木修子主事（福島学院大学）、佐藤信二係長（桜の聖母短期大学）、オブザーバーとして梶山貴嗣主査（会津大学）、大学連携センターから上遠野和村教授、七島貴幸研究員が参加しました。

教員、保護者、学生が必要としている情報や進学セミナー等の企画の適

切な開催時期などについて、現場の声を聴くことができました。

次回2月2日にも福島市にて開催を予定しており、いただいた意見を参考として、3月22日開催予定の進学セミナーをはじめとする今後の企画に活かしていきます。

【今年度の予告】

進学セミナー

日時：3月22日

会場：福島大学

プログラム：

現在企画検討中



昨年度のポスター